

【研究会抄録】

日本東洋医学会中四国支部島根県部会 第29回学術講演会

日 時：平成30年7月8日（日）

会 場：ホテルニューウェルシティ出雲

出雲市塩冶有原町2丁目15-1 TEL 0853-23-7388

1. 呼吸器外科領域における漢方薬の使用経験

島根大学医学部呼吸器外科 宮本 信宏

消化器領域においては麻痺性イレウスに大建中湯や機能性ディスペプシアに六君子湯など漢方薬が広く普及してきたが、呼吸器領域においては小柴胡湯の間質性肺炎の副作用から漢方薬は敬遠されることが多い。

当科では2010年から肺癌終末期における慢性心不全や慢性咳嗽症例で漢方薬の有効例を経験し、適応を呼吸器外科周術期管理に広げようになった。2015年以降はそのほとんどの症例で和漢診療学に基づく漢方診断と治療を行い、周術期に副作用なく満足できる効果を得られている。

最も多い処方では五苓散であり、過剰輸液による嘔吐や肺水腫といった水毒に有効で、利尿剤の使用を減らし腎不全症例にも安全に処方できた。次いで多い処方では人参養榮湯で、麦門冬湯との併用で術後の乾性咳嗽を制御しオピオイドを減量できた。

東洋医学的に肺は水の臓器であり呼吸器外科手術でも水分管理が極めて重要であるが、水の分布異常を調整する西洋薬はなく、利尿剤や補血剤は呼吸器領域において有益であると考えられる。

2. 感冒に対する升麻葛根湯の使用経験

福嶋整形外科医院 福嶋 裕造

鳥取市立病院総合診療科 藤田 良介

【はじめに】升麻葛根湯は初期の感冒や皮膚炎の治療に使われる。また、現在一般的な製薬会社の使用方法を記載した冊子等にも余り紹介されておらず使用目標も一般に知られていない。今回、流涙を伴った感冒の2例に対して升麻葛根湯を使用して有効であった。今回、流涙を伴う感冒に対して有効であり、これが升麻葛根湯の使用目標になると考え古典的検討、方意の検討を行った。

【症例】症例は81才の男性と69才の女性であり、感冒様症状を発症して当院を受診した、受診時に流涙を認め、

升麻葛根湯を投与して感冒様症状と流涙の改善を認めている。

【考察】升麻葛根湯の出典は、『小児薬証直訣』の附録の『閻氏小児方論』であり、『医方集解』には“升麻葛根湯は陽明の傷寒中風で…、目の痛みや鼻が乾いて横になりにくく、…”とあり、方意としては升麻葛根湯の升麻と葛根には陽明の汗を出させる作用があり、芍薬と甘草には和陰陽作用があり陽明の風邪を消散させる。そのため、治療対象は足の陽明胃経に症状のある感冒であり流涙も同様に陽明の症状であり升麻葛根湯の使用目標になりうると考えられる。

【まとめ】升麻葛根湯の使用目標についてはあまり知られていないが、流涙を伴った感冒が升麻葛根湯の治療目標になり得ると考えている。

3. 血尿に対して芎歸膠艾湯が著効した1例

鳥取市立病院総合診療科 藤田 良介

福嶋整形外科医院 福嶋 裕造

【主訴】血尿・不正性器出血

【現病歴】24歳女性。受診3週間前に腎盂腎炎を発症し、かかりつけ医にて10日間の抗生物質による治療を行われ治癒した。受診2週間前より生理が始まった。普段は5日間ほどで生理が終わるが2週間たっても生理がとまらず、めまいが強くなり受診前日にふらついて転倒した。腎盂腎炎を起こしたときから血尿も続いていた。血尿と不正性器出血が続くために総合診療科と産婦人科を受診された。

【身体所見と臨床経過】身長147cm、体重41kg、BMI19.0。血圧92/56、脈拍73回/分、体温37.0℃。望診では体格はやせ型で顔面は色白。舌質は淡紅で白薄苔、瘦舌で瘀斑あり。脈は弦・細で腹部は小腹圧痛と胸脇苦満・心下痞・臍上悸を認める。問診では職場に新人が入社しその指導にあたっているため、残業がつづき疲労がたまっている。食欲はあり下痢や便秘はない。息切れや倦怠感

は認めない。めまい感が続いている。腹部 CT 検査で器質的な異常を認めず、産婦人科受診でも器質的疾患の指摘はなく機能性不正性器出血の診断であった。疲労による血虚と考えて芍婦膠艾湯を処方したところ翌日には3週間続いていた血尿と2週間続いていた不正性器出血が改善した。また、めまいも同時に改善した。1週間内服を行い廃薬とした。

【考察】芍婦膠艾湯は金匱要略が出典である。本症例は精神的な苦痛により心血を消耗し、過度の労働により血虚となり血尿や不正性器出血が続いていると判断した。芍婦膠艾湯は補血薬の代表的処方である四物湯(川芎・当帰・地黄・芍薬)と止血薬の阿膠・艾葉・炙甘草の7味で構成されている。今回経験した症例は非常に効果発現が早かった。芍婦膠艾湯は血尿・不正性器出血のみならず、出血全般に対して非常に有用であると考え、芍婦膠艾湯の報告論文を渉猟し古典の出典も併せて、文献的考察を行った。

4. のぼせ、眼精疲労に対する七物降下湯の有用性について

石見クリニック 大森あさみ

七物降下湯は大塚敬節先生経験方であり、先生ご自身の眼底出血、高血圧に使用したところ好転したことから考案された。その使用目標は「疲れやすく最低血圧の高いもの、尿中に蛋白を証明し、腎硬化症のあるもの、また腎炎のための高血圧によい」とあり多少限定的であるせいか使用頻度はさほど高くないと思われる。

このたび七物降下湯を、四物湯による補血作用、釣藤鈎による鎮静作用、黄耆による止汗作用、黄柏による清熱作用をそれぞれ期待し血虚、イライラ等の精神症状、発汗を伴うのぼせに使用したところ有用であることが認められた。またのぼせに対する方剤のうち、七物降下湯は甘草、黄芩、山梔子という有害事象の散見される生薬を含有しないため選択しやすいと考えられた。

一方眼精疲労は様々な原因で生じるが近年のパソコン、スマホなどの長時間使用による VDT 症候群として増加傾向にある。漢方的な病態としては「肝は目に開く」ことから肝の失調が目の症状として現れるもので、治療には平肝明目作用のある釣藤鈎、菊花を含む釣藤散が第一選択として上がる。また寺澤捷年先生の血虚スコアによると眼精疲労は血虚の主な症状のひとつであり、四物湯、釣藤鈎を含む七物降下湯が候補に上がる。今回、眼精疲労に対し七物降下湯エキスと釣藤散エキスを合方し使用したところ奏効した。合方することで平肝、清熱、補気、補血作用が増強され効果を示したものと考えられた。

5. 皮疹の部位によって特定の漢方処方が有効であった症例について

内海皮フ科医院 内海 康生

皮膚疾患の皮疹の部位によって特定の漢方処方が有効なことがある。西洋医学ではある薬が特定の皮疹に効果を発揮することはまず無いように思われる。これまでに漢方治療を行い有効であった自験例の中から、顔面、特に眼瞼の皮膚炎に梔子柏皮湯、口囲の尋常性座瘡に六君子湯、頸部のアトピー性皮膚炎に辛夷清肺湯が奏効した各症例を供覧した。

顔面、特に眼瞼の皮膚炎に梔子柏皮湯が奏効した症例では、心の異常に対して梔子柏皮湯が有効であったと考えられた。眼と眉の間の色の変化によって、その人の病気がどこにあるかを知ることができ。青は肝、白は肺、黄は脾、黒は腎、赤は心となっている。眼瞼の皮膚炎で赤くなっている場合には心の異常が考えられた。

口囲の尋常性座瘡に六君子湯が奏効した症例では、脾の異常に対して六君子湯が有効であったと考えられた。それぞれの臓は主に症状が現れる場所が決まっています。顔のどこに変化が出たかで病のある臓がわかる。眼は肝、耳は腎、舌は心、鼻は肺、唇は脾と関連している。脾の異常は唇に変化が現れるので、口囲に尋常性座瘡が発症した場合は脾の異常が考えられた。

頸部のアトピー性皮膚炎に辛夷清肺湯が奏効した症例では、鼻や副鼻腔の炎症に奏効する辛夷清肺湯が解剖学的に近い頸部の皮膚炎に有効であったと考えられた。

皮疹の部位によって処方を変えることは治療の選択肢が増えることになり、よりきめ細やかな治療が可能になると思われた。

(高山宏世著、弁証図解 漢方の基礎と臨床、近藤亨子、第65回日本東洋医学会学術総会シンポジウム6「全人的にみた皮膚科治療」を参考)

【特別講演】

「様々な漢方方剤のランダム化比較試験

～東洋医学会 EBM 委員会構造化抄録作成に

携わって～」

医療法人財団北聖会 北聖病院

後藤 博三 先生

日本東洋医学会 EBM 委員会では以下の活動を行っている。1) ランダム化比較試験のエビデンスレポートの作成、2) 漢方薬の掲載されている診療ガイドラインの紹介、3) ベストケースの紹介、4) 医療用漢方製剤148種類の情報を簡潔に引用できる公式の情報サイトの作成。

エビデンスレポートの作成は、漢方薬のランダム化比

較試験の構造化抄録を作成するもので、1) 目的、2) 研究デザイン、3) セッティング、4) 参加者、5) 介入、6) 主なアウトカム評価項目、7) 主な結果、8) 結論、9) 漢方的考察、10) 論文中の安全性評価、11) Abstractor のコメント、12) Abstractor and date から構成され、読者に短時間に論文を理解していただくことを目的として

いる。

今回は、日本東洋医学会 EBM 委員会の概要を紹介し、ランダム化比較試験が多く実施されている漢方薬と試験数は少ないが臨床上有用と思われる漢方薬の構造化抄録を提示する。